

第 61 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館 (2026) 作家荒川ナツシュ医の共同キュレーターに高橋瑞木と堀川理沙が決定



イサム・ノグチ《オクテトラ》のあるこどもの国にて、横浜、写真：細川葉子

国際交流基金（JF）は、4 月 24 日付のプレスリリースをもって、JF 主催の「第 61 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」日本館展示に作家、荒川ナツシュ医（あらかわなつしゅ・えい）の選出を発表いたしました。続いてこの度、荒川ナツシュの指名を受け、高橋瑞木と堀川理沙の共同キュレーションが決定しましたので、お知らせいたします。

国際交流基金国際展事業委員会は、荒川ナツシュの日本館の展示プランは「作家自身の双子の子供と数多くの乳児人形などが会期中に“出演”し、LGBTQ や ジャパニーズ・ディアスポラにかかわる問題を捉える、この作家ならではの鋭くもまたユーモラスな批評性を伴った作品になるのではないかとコメントを寄せています。

2026 年は日本館設立 70 周年になります。この節目となる年に、日本国内にとどまらず、海外で活躍している作家とキュレーターによるチームが初めて実現しました。3 人の多様な視点と創造性から生まれる化学反応にご期待ください。

第 61 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館

会期：2026 年 5 月 9 日（土）～11 月 22 日（日）

会場：日本館（ビエンナーレ会場 ジャルディーニ地区内）

出品作家：荒川ナツシュ医

共同キュレーター：

高橋瑞木（CHAT 香港紡織文化芸術館、館長／チーフ・キュレーター）

堀川理沙（シンガポール国立美術館、シニア・キュレーター／キュレトリアル＆コレクション部門部長）

主催／コミッショナー：国際交流基金

日本館公式ウェブサイト：<https://venezia-biennale-japan.jp/j/>

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

■ 共同キュレーター略歴



写真：細川葉子

高橋瑞木

香港の CHAT 紡織文化芸術館の館長兼チーフキュレーターとしてミュージアムの基本方針の立案、組織とプログラムの企画設計を 2020 年から主導。2017 年から 2020 年にかけては、同館の共同ディレクターとして、ミュージアムの設立理念やアーティスティックディレクションの策定、展示やラーニング、パブリックプログラムの企画と実施、制度設計と運営の両面に関わる。日本では森美術館開館準備室（1999 – 2003 年）水戸芸術館現代美術センター（2003 – 2016 年）に勤務。これまでの主な国内外の企画として、水戸芸術館現代美術センターでは、「Beuys in Japan : ボイスがいた 8 日間」（2009）、「高嶺格のクールジャパン」（2012）など、CHAT では、「Unfolding : Fabric of Our Life」（2019）、「Sudō Reiko: Making

NUNO Textiles」（2019）、「Yee I-Lann: Until We Hug Again」（2021）、「Jakkai Siributr: Everybody Wanna Be Happy」（2023）などがある。



写真：細川葉子

堀川理沙

シンガポール国立美術館（National Gallery Singapore）設立に準備段階から関わり、現在は同館シニア・キュレーター兼キュレトリアル&コレクション部門部長。コレクション及びアーカイヴ形成やアクセシビリティに関するストラテジーを担う。近年は東南アジア・東アジアを中心に交錯するモダニズムを、特に 1930 年代から 40 年代に重きをおいて調査。当館での展覧会に「Between Declarations and Dreams: Art of Southeast Asia since the 19th century」（2015 年）、「Reframing Modernism: Painting from Southeast Asia, Europe and Beyond」（2016 年）、「(Re)Collect: The Making of Our Collection」（2018 年）、「City of Others: Asian Artists in Paris 1920s-1940s」（2025 年）など。

現職以前は福岡アジア美術館学芸員（2003 – 2012 年）、中国ロング・マーチ・プロジェクトのキュレトリアル・チームに参加（2002 – 2003 年）。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

■作家と共同キュレーターからのメッセージ**荒川ナッシュ医によるメッセージ**

生後 6 ヶ月の双子に自我が芽生えるこの瞬間に、密度の濃いコミュニケーションを二人のキュレーターと交わせるのが嬉しい！それはきっと双子にも伝わるだろう。時計の時差だけでも、すでに大変なジャグリングになっているが、様々なサポートを受けて、日本館を盛り上げたい。

高橋瑞木によるメッセージ

香港で移民、そして外国人労働者として美術の仕事に関わり 9 年経った。元紡績工場の中に開館したヘリテージミュージアムで、テキスタイルを切り口に、アジアの現代美術作家たちと歴史や政治、伝統や技術、ジェンダーや労働問題を探索する展覧会を企画、制作している。

香港で暮らしていると、色々な局面で自分が日本人であることを意識させられるが、その一方で、過去に日本の美術館で仕事をしていたときに、先輩の学芸員に何気なく「高橋さんは外人だからな」と言われたことがある。その言葉の真意は未だにわからない。日本人とは、日本とは、そして国家（ホーム）とは。

荒川ナッシュ医は、現代美術の前衛性を、自分の人生や生活と結びつけながら追求しているアーティストで、その作品を完成させるには多くの協力や援助やサポートを必要とする。つまり、彼の作品や展覧会をつくるということは、さまざまな人と一緒に赤子を育てるようなものなのだ。共同キュレーターの堀川さんやコラボレーター、そして日本館を訪れる観客と、このチャレンジングな共同育児のプロセスに参加する責任と、大きな喜びを感じている。

堀川理沙によるメッセージ

シンガポールに来てから 13 年、近代化や帝国主義を背景に、東南アジアと日本を含む地域内外の美術やモダニズムが絡み合う軌跡を追ってきた。たまに日本の知人から「いつまでシンガポールにいるの？」と聞かれるが、おそらく日本の外部にいるからこそできることは山積みで、今のところ帰る予定はない。

今回、私個人にとっても切実な「ジャパニーズ・ディアスポラ」を入口に、アジアの文脈とつなぎ、その過去・現在・未来を共に想像しようという誘いを荒川ナッシュ医から頂いた。「日本」をめぐるディアスポラの歴史は、棄民／植民／移民など重い言葉で綴られてきた。荒川ナッシュ医特有の、自らを外部に開き、さまざまな人を巻き込みながら自他の主体性をゆさぶり、ユーモラスに境界を乗り越えていく手腕が、このディアスポラという課題にどう作用するか。また「日本」の周縁にいる私たち 3 人が共同で日本館の歴史をどう塗り替えられることができるか、重責を感じながらも楽しみである。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

■ 基本情報

【第 61 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 全体概要】

会期：2026 年 5 月 9 日（土）～11 月 22 日（日）

会場：ジャルディーニ地区（Giardini di Castello）、アルセナーレ地区（Arsenale）など

制作：ヴェネチア・ビエンナーレ財団

総合テーマ：In Minor Keys/イン・マイナー・キーズ

なお、ヴェネチア・ビエンナーレ財団は、第 61 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の総合ディレクターとしてコヨ・クオ氏（ツァイツ・アフリカ現代美術館エグゼクティブ・ディレクター／チーフ・キュレーター）を 2024 年 10 月に指名し、同氏は準備を始めておりましたが、2025 年 5 月に急逝されました。同財団はコヨ・クオ氏の遺族の協力のもと、同氏の選んだ総合テーマ、コンセプト、専門家とともに、第 61 回展を開催することを発表しました。詳細は以下のサイトをご参照ください。<https://www.labiennale.org/en/news/biennale-arte-2026-minor-keys>

【ヴェネチア・ビエンナーレ（La Biennale di Venezia）について】

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリアの島都市ヴェネチアの市内各所を会場とする芸術の祭典です。1895 年に最初の美術展が開かれて以来、130 年近い歴史を刻んでいます。近年、世界各地で美術を中心に、国際的な芸術祭が開催されるようになってきていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2 年に一度」意味するイタリア語で、同様な芸術祭の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」（3 年に一度）と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭などを独立部門として抱えるようになりましたが、なかでも美術展は、現代の美術の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の美術界の注目を集めています。日本は 1952 年に初めて公式参加を果たし、1956 年に日本館の完成を経て、今日に至るまで毎回参加を継続しています。1976 年からは JF が日本館展示を主催し、現在に至ります。日本館の過去の代表作家については日本館公式ウェブサイトをご覧ください。

【コミッショナーについて】

第 61 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示の主催者／コミッショナーである「独立行政法人国際交流基金（JF）」は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。1972 年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003 年 10 月 1 日に独立行政法人となりました。海外に 25 か国・26 か所の拠点を持ち、「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐむ」をミッションに掲げ、世界の人々と日本人の間で相互の理解を深めるため、さまざまな企画や情報提供を通じて人と人との交流をつくりだしています。

■ 広報用画像

本プレスリリースに掲載の画像は、全て広報利用が可能です。

画像を希望される方は、広報担当の熊倉・福島（press@jpf.go.jp）までご連絡ください。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp